

たまのよこやま

(財)東京都埋蔵文化財センター報 No.5 昭和60年4月13日

特集

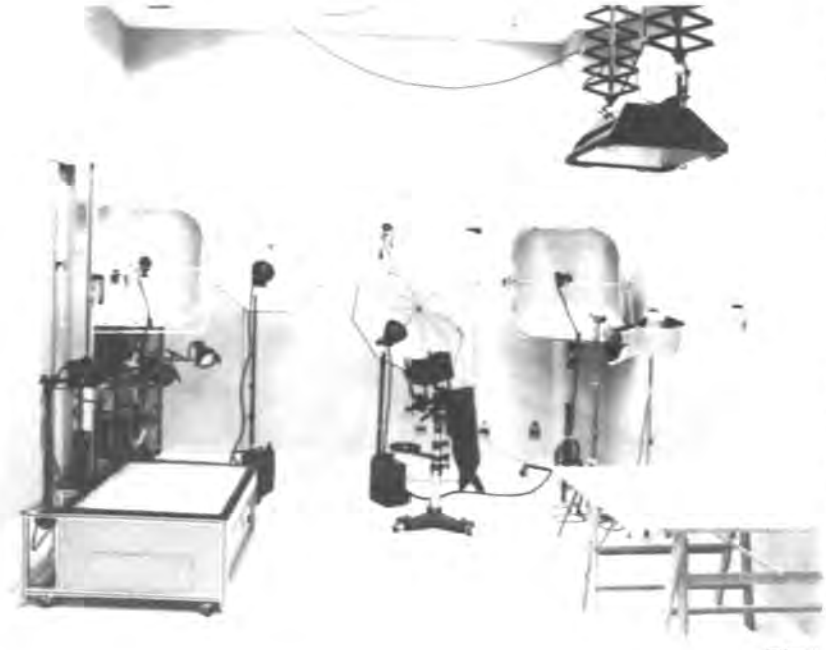
新施設紹介

(東京都立埋蔵文化財調査センター
財団法人 東京都埋蔵文化財センター)



分析室には走査型の電子顕微鏡や、蛍光X線分析装置、軟X線透過装置という出土遺物の保存修復には欠かせないのでない機器が設置されています。今後、試験的な操作を繰り返し、実施してゆく予定です。

記録整理室には多摩ニュータウン遺跡群の調査によって記録された住居跡の図面や土器の実測図などが図面専用の棚に収納されています。これらも広く研究者や市民の方々に利用していただく予定です。



写真室

一階には収蔵庫の他に写真室・暗室、遺物整理室があります。写真室では出土遺物を撮影できる機器が用意されています。遺物整理室では出土品の復原などの作業ができます。地階には収蔵庫の他に発掘現場から搬入されてきた土器や石器などを水洗いできる水洗室があります。以上で施設の主な部屋について説明を終わりますが、この他にも新しいユニークな施設があります。



岡崎先生の油絵

トピックス

是非お越しく下さい。また、この特集号のイラスト画は総務課の春名智美さんが描いたものです。

昭和五十八年四月から二年間産業医をお願いしました山口一善先生はこの三月で任期満了となり、四月から相談医として引き続きご協力いただくことになりました。新たに産業医としては岡崎クリニクの岡崎睦夫

先生にお願いし、これから職員健康管理のためお力添をいただくことになりました。先生は、現在、サンケイ新聞にコラム「校医の目」を連載中であり、また、遺跡発掘をテーマとした油絵も描かれておられます。

人の動き

(別掲)

▼調査課調査第四係長阿部祥人さんが三月三十一日付で退職、四月からは母校慶応大学の講師に。また調査員の比田井民子さんが四月一日付で調査第七係長に就任、ご両人ともおめでと。▼四月一日付で青山学院大学出身の新進気鋭の学究及川良彦さんを調査員としてお迎えしました。皆さんのこれからの活躍を期待しております。

発行 東京都埋蔵文化財センター
〒206 東京都多摩市落合1-14-2
☎ 0423-73-5296
0423-74-8044
昭和60年4月13日

(財)東京都埋蔵文化財センターに期待する

奈良国立文化財研究所長 坪井清足



貴センターが、昭和五十五年七月設立以来、次第に充実しつつあることは、年報、報告書を読むにつけ知るところであります。

このたび、文化庁の協力を得て、都立埋蔵文化財調査センターが建設され、その中で中心的存在として活動されることを聞き心からお慶びを申し上げます。

昭和四十年、私が文化財保護委員会記念物課で調査官をしていた時、多摩ニュータウン遺跡調査会の設立の御世話をさせていただきました。

爾来二十年、石油ショックなどの影響がありながらも、関係者の絶ゆまぬ努力により、本日、東京都で初めて埋蔵文化財に関する調査普及施設の開所を迎えたことは、今後の活動が大いに期待でき、当時の関係者の一人として感慨を新たにしているところであります。

斬新な建物もさることながら施設の内容も、最新の保存科学機器を備えるなど、その成果が期待でき、開発と保護の立場にたつて日夜努力されている貴センターの職員に対し深い敬意を表する次第です。

今後とも東京都の中心として、埋蔵文化財の保護普及に活躍されんことを念じて、お祝いの言葉といたします。



保存科学室

三階には埋文センターの調査課事務室、図書室、保存科学室、分析室、記録整理室があり、調査・研究的色彩の強いフロアとなっています。

図書室は三万冊を収納することができる可動式の図書ラックと閲覧机、コピー機が設置されています。現在は四千冊が入っているのですが、専門図書室としてより充実させてゆきます。



分析室

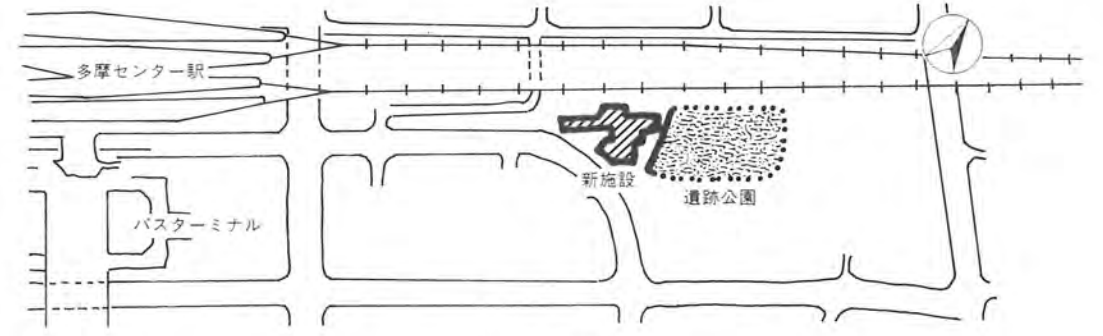
発掘調査の際、土器や石器の他に鉄器や木器が発見されます。これらは腐れやすいため、保存・補強を行う必要があります。保存科学室などはこのために設置された部屋であります。

施設概要

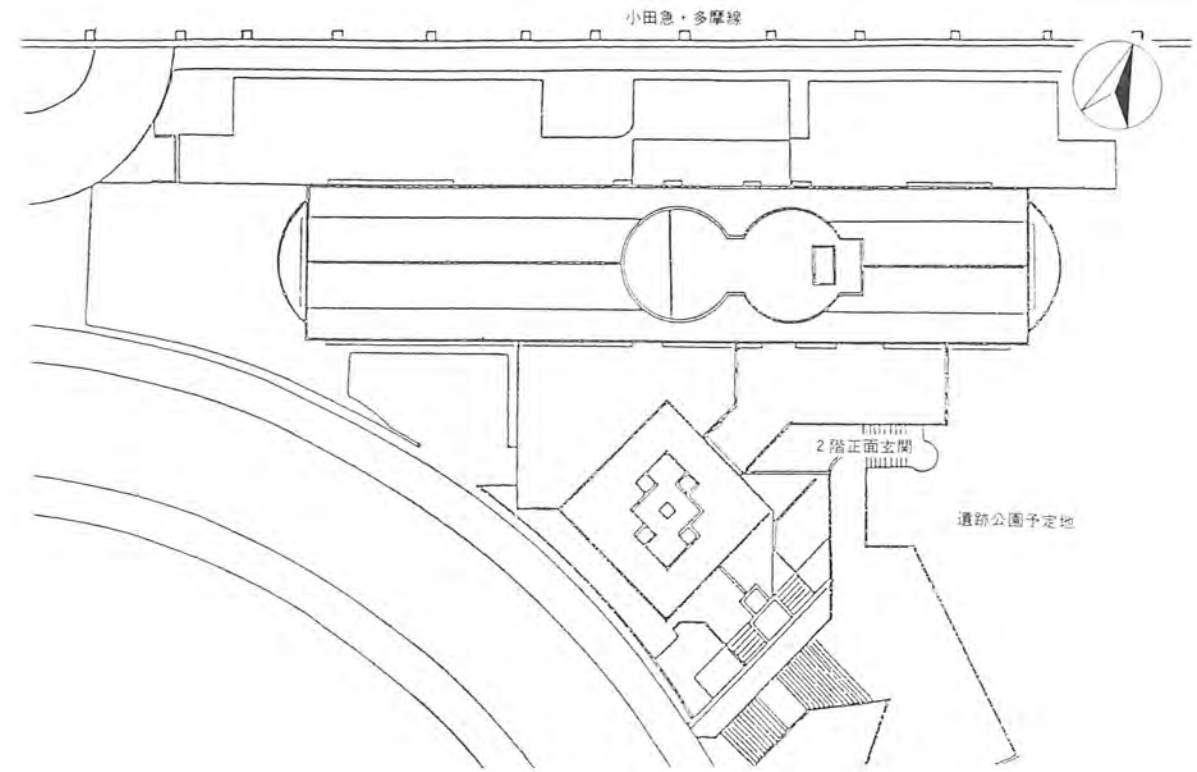
昭和五十九年十二月、多摩市落合に竣工した都立埋蔵文化財調査普及施設に当センターが引越して以来、ほぼ三カ月になりましたが、その間、東京都立埋蔵文化財調査センターと共に出土遺物、記録類などの収納、展示の準備を進めてまいりました。4月13日にはこの新施設の開所式を行ない、関係者の皆様に施設の内部を見ていただくことになりました。

従来、当埋文センターは事務所や遺物の整理場などがいくつにも分散し、さまざまな障害がありました。ここにその多くの機能を当施設に集中できましたことは今後の調査・研究活動および保護普及活動に新たな活力を投入できることになるものと期待されています。

本号では新施設の内容について広く都民の皆様方に知っていただくために、この新施設特集号を企画いたしました。展示ホールなどの見学にぜひ御来所下さい。



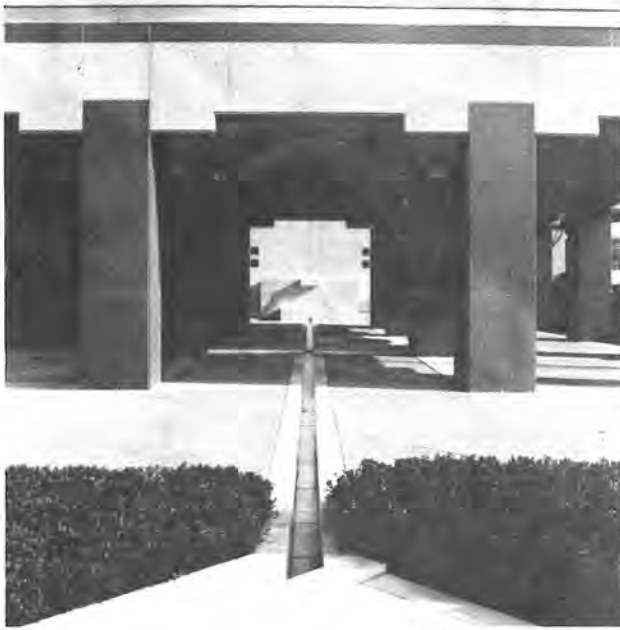
新施設の位置



新施設平面図



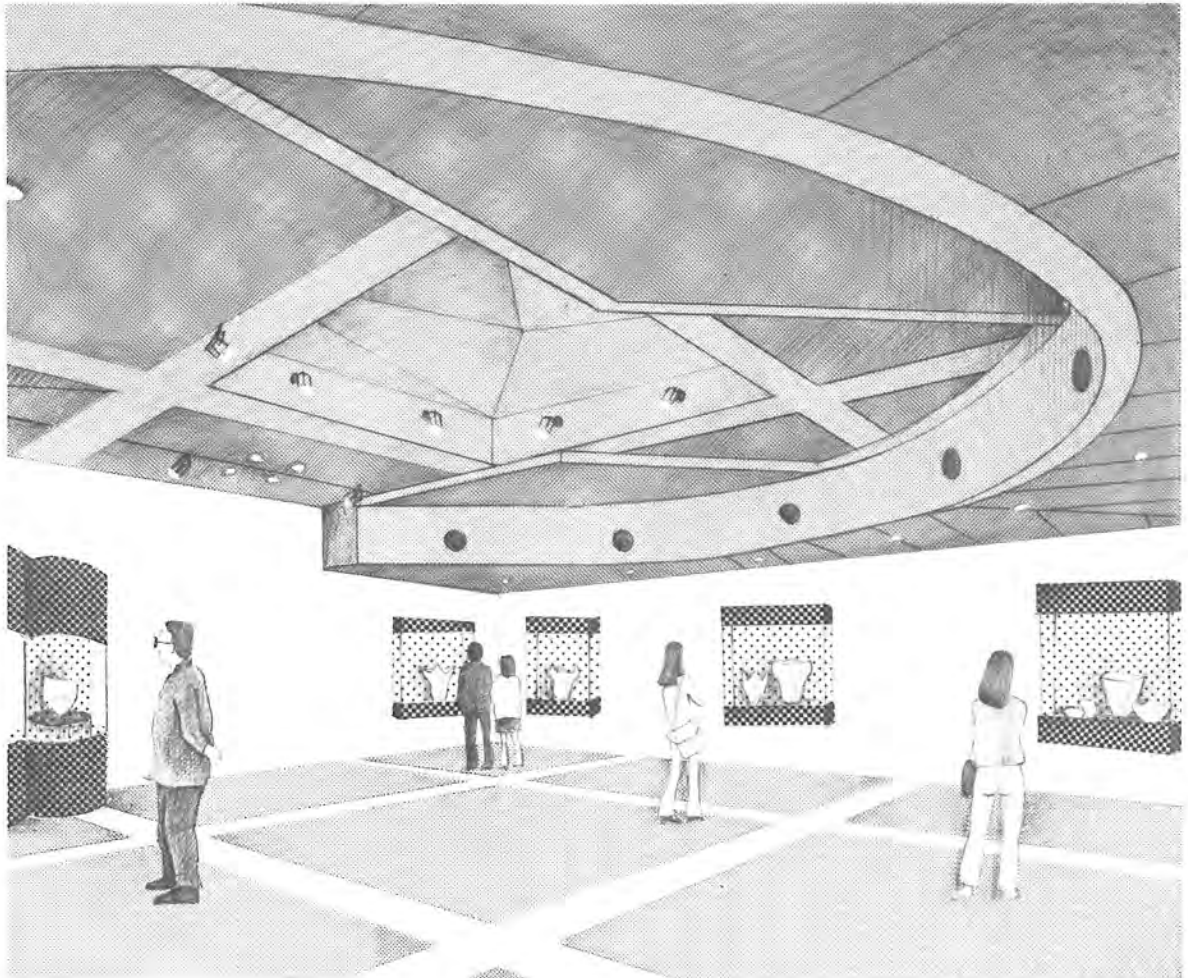
図書室



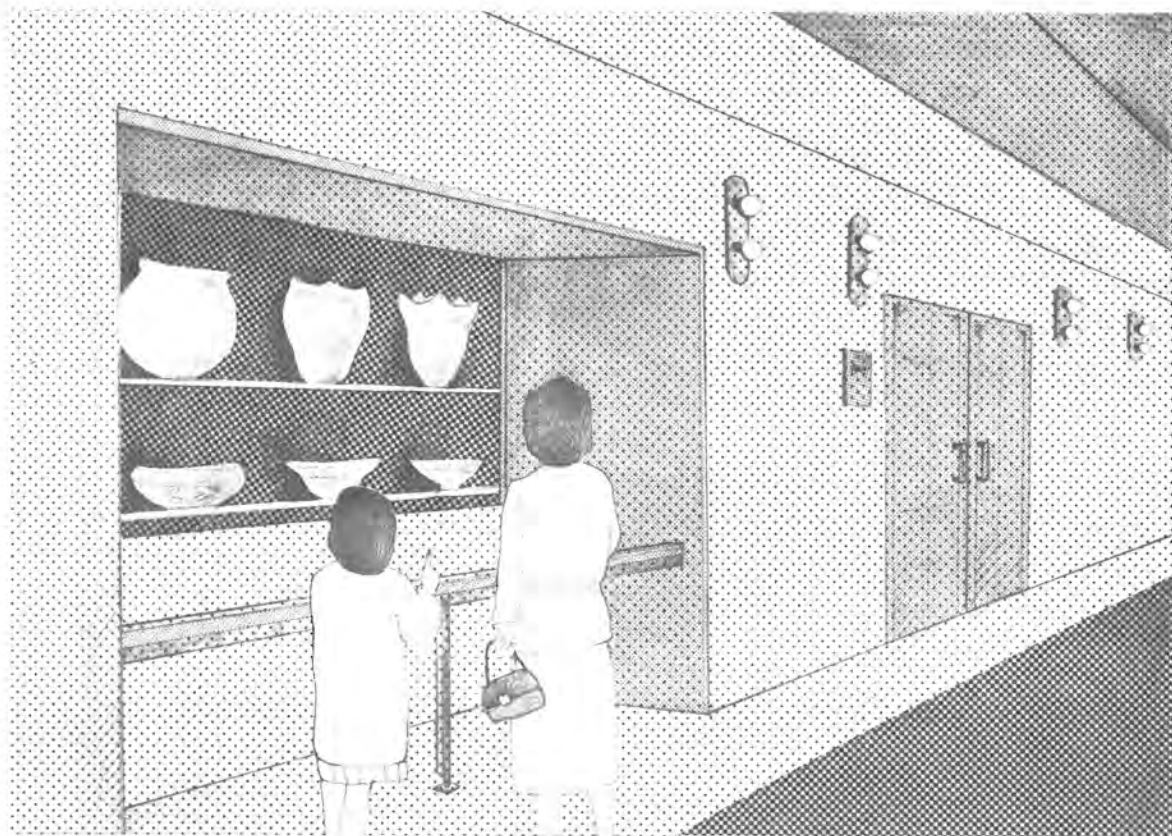
1階ピロティー流れの広場

当施設は多摩ニュータウン開発に伴う遺跡調査で出土した遺物の収蔵と調査組織の収容のために建設されたものです。このため、地下一階、地上三階の建物ですが、出土遺物の収蔵庫はその延床面積のほぼ4分の1を占めています。他のスペースは大半を東京都立埋蔵文化財調査センターと(財)東京都埋蔵文化財センターの活動拠点が占めますが、市民を対象とした出土遺物など

の展示用ホールもあります。二階の正面玄関から入ってすぐの所にあります展示ホールでは、4月から「多摩ニュータウン遺跡群」と題して、ニュータウン遺跡群の出土遺物の中でも逸品を集め展示します。今年にはニュータウン遺跡が本格的に調査されてから満二十年にあたり、この展示はこれを記念するものでもあります。



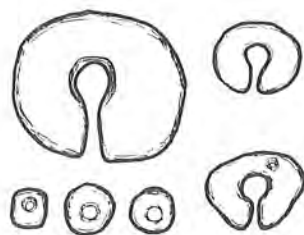
展示ホール



特別収蔵庫



会議室



縄文人の装身具

二階には、この他に埋文センターの総務課事務室、特別収蔵庫、会議室などがあります。美しい照明があるエントランスホールを抜けて行きますと特別収蔵庫があります。この部屋には多摩ニュータウン遺跡群から出土した土器の中から形が完全に残っているものなどを選び、棚に置いてあります。広く研究者や市民の方々が実際に遺物を観察し易いように設計された部屋で、外の廊下からもガラス越しに内部を見ることができます。

特別収蔵庫から廊下をさらに奥へ進みますと、つきあたりに会議室があります。この部屋は展示ホールと共に当施設での埋蔵文化財の保護普及活動の中心的なスペースとなります。主に市民を対象とした講演会や文化財関係の映画会を催すことができます。また、埋文センターの職員会議などにも使用することができます。今後の企画に御期待下さい。